

南仏治安情報（2月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）トゥールーズ他におけるジハーディスト関係者の逮捕

8日早朝、アルピとトゥールーズ在住のジハーディスト・リクルーター計6名（いずれも30代）が当局に逮捕された。

（2）トゥールーズで発生したダム建設反対デモの暴徒化

21日、トゥールーズで実施されたシヴェンス・ダム（タルヌ県）建設反対派によるデモが暴走し、商店や銀行など23店舗に器物損壊等の被害が出た。本件で約15名が逮捕され、即時出頭手続きを経て4名が有罪の宣告（公益奉仕及び損害賠償）を受けた。同ダム建設にあたっては、昨年10月に反対派の青年が閃光発音筒の直撃を受け死亡しており、工事は中断されたが現在も緊迫状況が続いている。

（3）テロ対策法適用による対象者の出国禁止措置

25日、ガール県ヴォヴェールにある男の家を憲兵が訪ね、本人に出国禁止を伝え旅券及び身分証明書を押収した。この男は過去に強盗の罪で服役しており、その際イスラム信仰を急進化させ、出所後イスラムを学ぶためと称してシリアやオマーンなどを訪れていた。今回もシリア渡航を企図していた模様で、当局はジハード網との関連を疑っている。本件は新しく施行されたテロ対策法による措置であり、この1週間で他にも南仏在住の5名が出国禁止措置を受けた。

● 殺人（邦人被害なし）

（1）ブーシュ・デュ・ローヌ（BDR）県ジニャックで発生した殺人事件

1日、BDR県内で2件目の対立抗争による殺人事件が発生した。発生場所は県道48号線上で、被害者は25歳男性。被害者は車を運転していたところを何者かに追跡されたとみられ、カラシニコフ様の銃弾を撃ち込まれ死亡しているのを発見された。被害者は過去にも殺人未遂事件の標的となっており、警察では対立する組織による犯行とみて捜査を進めている。

（2）BDR県ソセ・レ・パン近郊で発生した殺人未遂事件

26日深夜、27歳男性が県道D9にて車を走らせていたところ、車が道を塞いで停車しており、車内から出てきた男2名に自動小銃を乱射された。男性は背中などを負傷しながらも必死で車を近くのキャンプ場に走らせ、暗闇の中でエンジンを切って身を潜めた。犯人らが付近からいなくなった約2時間後にキャンプ場を出て警察・消防に助けを求めることができた男性は、奇跡的に生命の危機を回避することに成功した。男性の乗っていた車には、事情説明するまでもなく大量の銃弾が撃ち込まれていた。

● 強盗（邦人被害なし）

（1）マルセイユで発生した途中狙い強盗事件（被疑者の検挙）

2日、市の中心街にあるアパートのホールで、同所住人の87歳女性が若者2名に襲撃され、郵便局で下ろしたばかりの現金を強奪される被害に遭った。同様の手口被害は昨年10月か

ら市内で散発しており、今回の犯行現場付近を捉えていた防犯カメラ映像のおかげで警察は16歳と21歳の男2名を逮捕した。犯人らの手口は、郵便局を見張って「預金を引き出した一人歩きの人」を尾行し、人気のない場所で現金を強奪するというものであった。

(2) マルセイユで発生した映画館を狙った強盗事件

27日夜、6区プラド通りにある映画館にヘルメットと手袋をして銃を持った男2名が押し入り、券売所の女性を脅し付けて売上金2,000ユーロを強奪した。犯行当時、同所にはチケット購入のため並んでいた客も複数おり、現場は騒然とした。なお、同様の犯行は本年1月下旬にも10区ヴァロンティンの映画館で発生している。

● 傷害（邦人被害なし）

(1) マルセイユで発生した集団による傷害事件

8日未明、3区Loubon通りにあるバーの前で2グループ間の乱闘が発生し、銃撃戦が繰り広げられる事態となった。この事件で腕を撃ち抜かれた25歳の男性と銃床で頭部を殴られた30歳男性が病院に搬送された。警察は、目撃情報と防犯カメラ映像から関係者の割り出しを急いでいる。

(2) マルセイユで発生した公務執行妨害・傷害事件

8日夕方、14区アーナヴォー通りで交通整理をしていた警察官らのうち1名がバイクにはねられる事件が発生した。バイクの運転手は意図的に警察官目掛けて衝突しており、バイクが倒れたところを他の警官に制圧され逮捕された。

● 薬物関連

(1) マルセイユで発生した薬物抗争に端を発する警察車両への銃乱射事件

ヴァルス首相がマルセイユを訪れた9日、16区カステラーヌで警察車両に向けたカラシニコフによる乱射があった。朝方子どもを学校に送る途上の親から、「覆面をした若者たちが銃器を持って住宅棟内外に陣取っている」との通報が警察にあり、昼過ぎに同市の治安局長を含む警察関係者が現場に向かったところ、到着した警察車両に向けて乱射がなされたもの。負傷者、損害共になし。警察による家宅捜索の結果、カラシニコフ7丁、けん銃2丁、大麻7kg等が押収された。後の捜査により3名が逮捕され、本件が首相来訪時を狙った示威行為等ではなく、薬物絡みの対立抗争であることが判明し、マルセイユの治安向上をアピールしに来たヴァルス首相を皮肉る形となった。

● その他特異事件（邦人被害なし）

(1) BDR県ラ・シオタ他で発生した英米当局によるクラッキング事案の発覚

2010年と11年、ジェムノストラ・シオタにあるSIMカード製造会社「ジェマルト社」のコンピュータ情報網に英政府通信本部及び米国国家安全保障局が侵入し、暗号解読及びSIMカード制御活動を行っていたことを、20日エドワード・スノーデン氏が明かした。これら組織は、その後盗んだ情報を基にして自国治安維持のために携帯電話を盗聴していた模様。ジェムノス社は、同時期に極めて高度なハッカー攻撃2件を受けていたことを認めた。

(2) コルシカ島で発生したホテル放火事件

26日未明、コルス・デュ・シュッド県ゾンザにあるホテルで火災が発生し、爆発を引き起こした。ホテルの壁及び同一所有者の商店壁面に「麻薬はまっぴら」の落書きが残されていたことから、警察は放火の線で本件捜査中である。なお、事件発生当時、ホテル内は無人であった。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。